1.取材・撮影に同席くださったパパだいすきなお嬢様　2.袖ボタンは4つすこしずつ重なりあったナポリ仕立てスーツによくみられる仕様　3.モンクストラップと呼ばれる紐靴以外で唯一スーツにあわせることができるタイプの靴　4.素敵に年齢をかさねた大人の男性だけが使いこなすことができるペイズリー柄ネクタイ 5.何度も口にされていたのが「感謝」感謝の究極は「生かされていること」だとインタビューを通して感じました

し、母からは「むずかしい仕事よ」とだけはたびたび聞かされていたので、手伝う気もなければ仕事内容すらよくわかっていませんでした。でも父がそういうのには何か意味があるのだろうとは思って悩みはじめました。でも教師をめざし勉強をしてきたので1回は教員採用試験を受けさせてほしいと父に頼みました。しかし少子化の影響で教員採用はほとんどなく、公立高校の体育教師の募集はなんと1名。結果試験には落ちてしまい、就職活動をはじめました。すぐに会社に入らなかったのは父の意向です。すぐに会社にはいったら絶対あまえる。父の口利きがあれば就職先も見つかりますが縁故入社でも甘える。自分の力で探してこい！　ということでした。そしてもう1つ父の意向がありました、それは5年以内に戻ってこい！でした。

君のお父さんを親父としてみるな

なぜ5年以内なのか？　というと、長い間つとめすぎるとサラリーマンの考えかたになってしまうから。東京の会社で5年サラリーマンし、そこで妻とも知りあい、父の会社にもどりました。当時の父の会社は社員20名弱。私の年上ばかりでイカツイ職人さんだらけ…。えらいとこに帰ってきてしまったと正直思いました。古株社員からしたら社長の息子がかえってくるというのは正直ビミョーなことも多く、嫉妬をされたりいじめに近いようなこともよく聞くのですが、私の場合そういったことは一切ありませんでした。もちろん甘やかしてはくれませんでしたが、一人の仲間としてちゃんと接してくれました。それはやはり父のチカラです。社員はみんな父を尊敬していたので息子をもどすという決断をした父の気持ちを尊重し、真剣に私を育てようとしてくれていたのです。

元西武ライオンズ監督の根本陸夫さんが父の友人で、東京から万水へ戻る前に挨拶にいったとき「君のお父さん、ひろしさんを親父としてみるなよ。人に対する気配り心配り、気遣いはすごいものがある。だから1人の人間としてよく見てよく勉強しろ。決して親父としてみるな」と言われました。どういう事なのかその時は分かりませんでしたが、一緒に仕事をするなかでだんだん意味がわかってきました。いろいろなことによく気がつく力が凄く、相手が取引先であっても言うべき事はきちんと言う。対取引先ではなく対人間としての繋がりをつくっていました。もちろん仕事もカンペキで万水さんであれば安心という信用をつくりあげていました。そして２００９年43歳のときに社長になり、父は会長就任したのですがそれから数年後に父が脳梗塞でたおれたので結果的によいタイミングで事業承継することができました。まわりにも二代目経営者がいますが、すごく順調にバトンタッチできたほうです。それはやはり父と社員さんの信頼関係のおかげ。父も私を特別扱いすることがなかったですし、社員さんたちも私を色眼鏡でみることをせずありのままの私を受け入れてくれました。二代目大変やな…　とかよく言われていましたけど、私は大変と思ったことが全然なくて、ありがたいなという感謝しかないのです。創業者のほうがよっぽど大変、二代目はすでに路線をある程度引いてくれたのをやるのですから立ちあげの大変さがないのです。

事業承継は選ばれし者の特権

「決しておごらない、感謝する」。私が常に意識していることです。二代目経営者のなかには先代と比較されるのを嫌がる方も多いですが、私はそうおもったことはありません。そもそも父が立ち上げた会社なので勝てるわけはないのです。とはいえ卑屈になっているわけではなくて、私には私の役割や価値があるのでそこを磨けばいい。さらに世の中に必